

各 位

会 社 名 株式会社フレンドリー  
代 表 者 名 代表取締役社長 八木 徹  
(コード番号 8209 東証スタンダード)  
問合せ先責任者 取締役営業本部長 小松 大介  
(TEL 072-874-2747)

上場維持基準（純資産基準）の適合に向けた計画に基づく進捗状況について

当社は、2025年6月27日に「上場維持基準（流通株式時価総額）の適合に向けた計画に基づく進捗状況（改善期間入り）及び上場維持基準（純資産基準）の適合に向けた計画（改善期間入り）について」を提出し、その内容を開示しております。

つきましては、2026年3月期中間期における上場維持基準（純資産基準）の適合に向けた計画の進捗状況について、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 2026 年 3 月期中間期決算の状況

2026年3月期中間会計期間におきましては、付加価値の高い高単価商品の導入や、季節のおすすめ商品の展開に加え、「カミサリー」（食品加工工場）の活用による生産性向上を図り、収益性の改善に努めてまいりました。しかしながら、客数が想定よりも下回った結果、当社の売上高は計画比マイナス109百万円の1,121百万円（計画 1,230百万円）、営業利益は計画比マイナス47百万円のマイナス7百万円（計画 40百万円）、経常利益は計画比マイナス41百万円のマイナス1百万円（計画 40百万円）、中間純利益は計画比マイナス39百万円のマイナス9百万円（計画 30百万円）となり、当中間会計期間において49百万円の債務超過となっております。

2. 債務超過の解消に向けた基本方針

当社は2026年3月期末の債務超過解消を目指しており、以下の施策を着実に実行することにより財務体質の健全化と収益力の改善を図り、債務超過の早期解消を目指してまいります。

- i) 営業施策による売上高・客数の向上
- ii) 原価低減活動の継続実施と生産性のさらなる向上による収益性の改善
- iii) 業務管理の日次・月次でのきめ細やかな分析とスピーディーな経営判断による業績向上

3. 取り組みの進捗状況等

1) 収益改善に向けた取り組み

2026年3月期中間期累計期間におきましては、基本方針に基づき「営業施策による売上・客数の向上」「原価低減と生産性向上」「業務管理の強化による業績改善」を三本柱に、財務体質の健全化を推進してまいりました。

具体的には、営業施策として高単価商品の導入や営業時間延長、自社アプリの活用等による収益力の強化、収益性の改善施策としてカミサリーの活用による製造体制の内製化や原価率の最適化によるコスト抑制、業務管理としてスーパーインテンデント（3～4店舗を統括する責任者）制度やデータ活用による迅速な意思決定により、全社的なコスト管理を徹底しております。

しかしながら、客数が想定よりも減少していることより、本日開示している「第2四半期（中間期）業績予想値と実績値との差異及び通期業績予想の修正に関するお知らせ」のとおり、2026年3月期の売上高は前期比9.7%増の2,308百万円、営業利益は前期から94百万円改善され、55百万円の見込みとなっております。

また、当社は流通株式時価総額基準においても不適合ですが、流通株式時価総額基準の適合に向けた取り組みの詳細は、2025年6月27日付「上場維持基準（流通株式時価総額）の適合に向けた計画に基づく進捗状況（改善期間入り）及び上場維持基準（純資産基準）の適合に向けた計画（改善期間入り）について」をご参照ください。

以上